

令和5年度第6回景観審議会デザイン協議部会 会議要旨

1. 審議会（部会）の日時、場所、出席者、議事

- (1) 開催日時 令和5年（2023年）12月1日（金） 午後2時30分～同3時30分
- (2) 開催場所 宝塚市役所 3階 2-3会議室
- (3) 出席者
 - ・景観審議会デザイン協議部会委員
徳尾野部会長、山根委員、澤委員、高木委員、田中委員、川崎委員、戸川委員
 - ・事務局（都市整備部 都市整備室 都市計画課）
福田室長、谷口課長、下山係長、武田職員、白川職員
 - ・事業者
議事① 事業者 阪急電鉄株式会社
設計者 株式会社久米設計
- (4) 議 事
議事① 宝塚大劇場新ビル建設計画
- (5) 傍聴者
議事① 0名

2. 会議の要旨

事務局： 本日のデザイン協議部会は、委員8名中7名の出席がありましたので、宝塚市景観審議会デザイン協議部会の設置及び運営に関する規程第5条に準用する宝塚市景観審議会規則第6条第2項の規定により成立する旨を報告します。

景観審議会運営規程第3条第1項の規定に基づき、本日の議事は全て公開となっています。傍聴者があれば入室を承認しますが、傍聴者はいらっしゃいません。

会 長： 本日の署名委員は、3番の澤委員と9番の戸川委員です。

☆☆☆☆ 宝塚大劇場新ビル建設計画 ☆☆☆☆

会 長： 景観に配慮された点について説明をお願いします。

設計者： 今回の計画地は、武庫川に面する宝塚大劇場の敷地内で、現状はテラスとして使用されています。

計画地にある2本の大きなクスノキについては、工事に支障が及ぶ範囲については枝払いを行います、樹木そのものは保全します。

外観については、既存のモチーフや色彩に合わせた計画とし、対岸から見た際に、全体がまとまった景観になるよう配慮しています。

建物の高さについては、各施設の天井高や設備の収まり等を考慮して必要最低限の高さにすることで圧迫感を軽減し、段差を設けることで大きな屏風の様にならないよう計画しております。

会 長： では、委員よりご意見やご質問があればお願いします。

委 員： 既存建物の細かなモチーフをいくつか取り入れられている点については、建物単体で見ると良いかと思いますが、建物全体の構成についても、宝塚ホテルから大劇場、音楽学校あたりのこの区域一体の既存建物に合わせていただくと、繋がりができてより良くなると思います。

この区域一体の既存建物は、3～4階付近に屋根がありますので、計画建物においても、既存建物の屋根ラインへ繋がるようなところに庇を設けるなどして、壁面のボリュームを揃えるような工夫をしていただきたいと思います。

また、スカイライン部分についても、既存との繋がりを感じられるような計画としていただきたいと思います。

会 長： 現況写真を見ると、この区域一体は、川沿いに屋根が見えるようにリズムがつくられています。このリズムを踏襲することや、3～4階付近の屋根の流れなどが継承されると、大きな壁面の圧迫感が和らぐと思います。

設計者： スカイラインについては、なるべく目立たないように瓦屋根を二段にしています。

また、庇については、3～4階付近は少し考えづらいかと思うのですが、1階のみ一般のお客様も使用できるシェアラウンジで、関係者のみの利用となる他の階との区別があるので、この境であれば、設置を検討してもいいかもしれないと感じます。

委員： 既存建物は、スパニッシュスタイルを基本としたデザインになっており、今回もそれに則ったデザインにされているとお見受けします。

外壁については、吹付仕上げにて計画されていますが、既存建物はコテ仕上げで、凹凸や筋目が陰影をつくり、壁の表情を非常に柔らかくしています。この場所は、宝塚市の武庫川沿いの非常に象徴的な景観ですから、この表情を上手く合わせていただきたいと思います。

色調は既存合わせにされるとのことですが、スパニッシュスタイルにとってテクスチャは非常に重要なポイントです。吹付けは、どうしても光を反射して明るくなってしまいますが、コテ仕上げにすることで、落ち着きや潤い、既存建物との質感的な連続性が生まれると思います。連続性や高級感という意味でも、是非ともコテ仕上げにこだわっていただきたいです。

また、屋上に設置される太陽光パネルについて、重要な視点場である橋や電車の車窓から見えてこないでしょうか。もし見えるようでしたら、見えないような配慮をお願いします。

事業者： 既存建物の壁面は、左官仕上げのコテ引き起こしという手法で施工されていますが、施工できる職人の確保が難しく、コストも非常に高くなりますので、壁面全てをコテ仕上げというのは難しいです。今回の計画地は、視点場から少し離れていますし、主な用途も事務所ですので、あまり意匠に注力しすぎるのが難しいということもあります。ただし、部分的な施工であれば、少し可能性があるかもしれません。

委員： 建物用途が事務所かどうかは、外から見の人にとって関係のないことです。外観としての連続性と、テクスチャとしての繋がりや高級感が出るような配慮をご検討いただきたいです。

会長： 現在の計画では、壁面が連続しているので、部分的な施工ということであれば少し工夫が必要かもしれません。意匠を工夫して壁面の分節化ができれば、ポイント部分や人の視線に近い低層部のみをコテ仕上げとしても良さそうです。

コテ仕上げについては、現場がなければ、施工できる職人の方もますます少なくなってしまうと思います。技術の継承ができる場をつくるといった社会貢献的な意味合いからも、是非再度検討して欲しいと思っています。

太陽光パネルについてはいかがでしょうか。

設計者： パネルの角度を 20 度に設定しており、真正面から見ると少し見えます。

会 長： パラペットを高くすると太陽が当たらなくなるというジレンマはありますが、重要な視点場である橋や電車の車窓等から見えないか確認いただきたいです。

設計者： わかりました。

委 員： 瓦についてですが、製品の型番まで含めて、既存建物と全く同じものを使用されているのでしょうか。

設計者： 全く同じものは用意できません。試し焼きなどで確認して、できるだけ近いものになるようにしたいと思っています。

委 員： 勾配屋根のボリュームが小さいのが気になっています。この区域一体の既存建物は、連続した勾配屋根が非常に美しく、この連続性が景観上大きな役割を果たしていると思います。

周辺と調和するよう検討していただいていると思うのですが、どうしても河川沿いに突然立ち上がってくる壁のような印象を受けます。視線を遮断してしまい、中に入り込めないような雰囲気、拒まれているように感じます。出来るだけ柔らかい雰囲気にするために、コテ仕上げのような外壁仕上げや、壁面の分節、大きな勾配屋根の連続性等についてご検討いただきたいです。

太陽光パネルについては、屋上の西側部分に計画されていますので、東側だけでも屋根を大きく見せる工夫ができるのではないのでしょうか。屋根の連続性をしっかりと継承できれば、印象も随分良くなると思います。

外壁の吹付け仕上げについては、面として明るくなってしまいう上に、南面であるため、太陽光によってさらに明るく映ります。そのため、既存建物と同じマンセル値としても、仕上げの差によって違って見えてしまうと思います。

設計者： 屋上は、キュービクルや室外機などの設備機器の設置面積を考慮すると、ぎりぎりの計画です。例えば、屋根勾配を緩くすると、屋上の面積が小さくなり室外機のショートサーキットの問題等が生じることや、太陽光パネルが視認されやすくなることがありますので、ご意見いただいたように勾配屋根の面積を増やすよう変更するのは厳しいです。

会 長： 小手先だけで屋根を大きく見せるのはなかなか難しいようですので、もう少し壁面の構成を考えるなどのご検討をしていただきたいと思います。

壁面の色彩については、どのように決められますか。

設計者： コテ引き起こしですと、遠くから見ると、影によって濃く見えるというのは確かにその通りだと思いました。吹付け仕上げとなった場合には、コテ引き起こしとの差を加味して、多少色を濃くすることを検討したいと思います。

会 長： 汚れや陰影を考慮して既存の色彩を採用していくということですね。

設計者： そうです。

また、既存建物の瓦については、近くで見ると若干色むらがありますが、遠目では単色のように見えるため、それに合わせようと考えています。

委 員： それでしたら、瓦の色むらの暗い方の色に合わせていただくのが良いと思います。面積が小さいので、淡い色に合わせると、外壁色との差が小さくなってしまいます。明度を少し下げた方が、調和性が高まります。

設計者： 分かりました。

委 員： 計画されている意匠について、屋根と最上階の窓の部分が少しフェイクっぽく見えすぎている気がします。

例えば、一番上の窓は頂部横連窓となっていますが、無機質な雰囲気、既存建物とは違ったものという印象を受けますので、もう少し検討していただいても良いのではないかと思います。

この区域一体の既存建物は、塔を挟んでいる意匠も見受けられます。分節の見せ方のひとつの手法として取り入れていただいても良いかもしれません。

設計者： 分節化という点では、低層部、中層部、最上部に分けた計画としています。

また、中層部の窓には、壁面より 100 mm 突出する枠を設けて、窓の周囲に陰影がつくよう計画しています。

会 長： そのような枠などで陰影がつくことも、壁面の分節につながると思います。ただし、外壁が吹付け仕上げですと、窓台をしっかりと出さないと、外壁面に雨垂れが目立ってしまいます。また、影がしっかりと出るようなディテールとすることで、本物らしい風合いがでてくると思いますので、よろしく願いいたします。

委 員： 既存建物を遠目から見ると、大屋根を組み合わせてリズムカルにつくられて

います。しかし、今回の計画建物は、横幅も長く、全体のリズムを分断してしまっていると感じます。難しいかもしれませんが、やはり、3～4階の高さに少しでも屋根が見えれば、リズムとして繋がってくるのではないのでしょうか。

1点質問ですが、立面図において、縦方向にしっかりと目立つラインが入っているのは縦樋ですか。これは、何色でしょうか。

設計者： はい、縦樋です。色は、既存建物の縦樋が銅板製のため、近似色で検討しています。

委員： 建物形状でなく、樋でラインが入ってくるので、色彩的にも比較的目立って、建物の分節につながりそうですね。また、既存建物の外壁には、意匠による目地がいくつか入っています。この意匠を取り入れることで、建物の分節が少しできるかもしれません。

また、吹付け仕上げについて、例えば厚塗材とすることで、もう少し陰影がつけられるということもあるかもしれません。こういった工夫を組み合わせるなど、色々と検討していただければと思います。

委員： 今回の計画地は緑が多く、周囲と非常に調和していました。事業運営上、必要なことかとは思いますが、この景観が無くなるのは残念です。

屋根については、やはり気になりますので、他の委員から出た意見について、前向きに検討いただきたいと思います。

会長： 屋根の連続性や大きな壁面の分節、外壁の仕上げなどについて、様々な意見ができました。計画地は、宝塚市の景観上重要な位置にあるということもありますので、本日の協議を踏まえた検討結果について、再度協議をお願いしたいと思います。是非前向きに検討いただければと思いますので、宜しく願いいたします。それでは、本日の協議はこれで終了とします。